

令和7年度 海津市防災会議 議事録

開催年月日： 令和8年1月28日（水）
開催場所：海津市役所 東館4階 災害対策本部室
開 会：午後1時30分
閉 会：午後3時00分
出席者：別紙名簿のとおり
事務局：3名
欠席者：5名

事務局	<p>大変お待たせいたしました。 定刻となりましたので、「令和7年度海津市防災会議」を始めさせていただきます。 本日は、公私とも大変ご多用の中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、委員25名のうち、5名の委員からご欠席の連絡をいただいております、20名の委員にご出席いただいております。 委員の過半数以上のご出席をいただいておりますので、海津市防災会議運営規程第4条第1項の規程により、本会議が成立することをご報告します。</p> <p>初めに、本日の会議資料のご確認をお願いいたします。 資料は事前に配布させていただいておりましたが、本日、お持ちでない方は挙手をお願いします。 本日の資料は、追加が1部、差し替えが1部ございます。 追加、差し替え分は、机上にて配布させていただいております。 追加は、海津市地域防災計画 新旧対照表の第1編・総則で、右肩に＜追加資料＞と記載しているものでございます。 差し替えは、海津市地域防災計画 新旧対照表の資料編で、右肩に＜差替版＞と記載しているものでございます。 追加、差し替え項目は、昨年7月にNTT西日本株式会社様が社名変更されたことが反映されておりませんでしたので、追加いたしました。大変失礼しました。 それ以外の資料について、ご確認をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none">・会議次第・【資料1-1】海津市地域防災計画 修正の概要・【資料1-2】海津市地域防災計画 新旧対照表・【資料2】第2期海津市地域強靱化計画アクションプラン2025・【資料3】防災行政無線設備改修について・【資料4】災害用トイレカーの導入について・【資料5】「NIPPON 防災資産」の認定について・【資料6】主な防災・減災対策事業の実施状況について・「誰ひとり取り残さない地域防災」シンポジウム チラシ <p>加えまして、委員名簿、席次表でございます。 不足がある場合は、事務局までお知らせください。</p> <p>次に、委員のご紹介につきましては、時間の都合上、お手元の委員名簿及び席次表にて代えさせていただきますので、ご了承をお願いします。</p> <p>また、本会議のアドバイザーとして、本年も、岐阜大学工学部 教授 能島暢呂先生、岐阜大学環境社会共生体研究センター 准教授 小山真紀先生、清流の国ぎふ女性防災士会 会長 伊藤三枝子様にご出席いただいております。先生方、どうぞ、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、次第に基づき、進行いたします。</p>
-----	--

	<p>はじめに、開会にあたり、海津市防災会議会長であります横川市長よりご挨拶申し上げます。</p>
市 長	<p>みなさま、こんにちは。市長の横川でございます。</p> <p>海津市防災会議の開催のご案内をいたしましたところ、委員の皆様におかれましては、ご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、防災行政のみならず、日頃から市政全般にわたりご理解ご協力を賜っておりますこと、まずもって御礼申し上げます。</p> <p>さて、今年も日本各地で多くの災害がありました。まずもって、これらの災害で命を落とされた方にご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災されました多くの方々にお見舞い申し上げます。いつ、どこで、どのような災害が発生するのか、現代の技術を持ってしても、正確に予測することは困難であり、日頃からの備えを怠らないことが、いかに大切であるかを改めて認識したところでございます。</p> <p>こういった中で、海津市での防災・減災対策について、簡単にご紹介します。まず、災害時の衛生的なトイレ環境の確保を目的に、トイレカーを導入いたします。今年3月の納車予定で2台購入しまして、それぞれが100回程度使用可能です。トイレカーを導入することで、衛生的なトイレ環境を確保していきたいと思っております。このトイレカーについては、災害時のみならず、様々なイベントで活用することで、平時から使ってまいりたいと思っております。</p> <p>衛生環境だけでなく避難所環境の改善も進めていく必要があるということで、避難所となる市内小中学校体育館への空調設備の整備を、本年度から4ヵ年計画で9校を対象に進めております。この事業では、空調設備の整備に加えて自家発電機を設置し、災害発生時に停電が起きても空調設備を運転できるようにすることで、避難所の生活環境向上に大きく寄与するものと考えています。</p> <p>そのほか、民間企業との間で協定を締結し、災害時の連携を積極的に進めているところで、6月には特定非営利活動法人Vネットと「災害時における入浴支援等に関する協定」を締結しました。この協定により、避難所等で入浴支援や洗濯支援、送風機の貸与を受けられるようになり、避難者の衛生環境が改善され、ストレスの軽減につながると考えております。さらに、8月には株式会社ナフコと「災害時における物資供給に関する協定」を締結しました。この協定により、株式会社ナフコの全国の店舗網を活用し、災害対応物資を円滑に調達することができるのと同時に、避難生活の質の向上を図ることができると期待しております。</p> <p>そして、昨年度と今年度にかけて行っておりましたのが、防災行政無線設備の更新であり、随分と防災無線が聞きやすくなったなというお声もいただけておるところでありまして、防災情報の発信についても、しっかりと強化していきます。</p> <p>本日は、「地域防災計画」の修正についてご協議いただく予定ですが、特に、車中泊避難者への支援やペットの同行避難について、運用上のルールづくりを進める必要性を感じております。これらに関しましては、まず地域防災計画に明記した上で、実効性を確保するため、マニュアルやガイドラインの改定を進め、各避難所におきまして、そういった受け入れができるように、これから努めてまいります。</p> <p>委員の皆様には、この海津市の防災力の強化に向けまして、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。私の冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして、本日の議題に移ります。本会議運営規程第3条において、議長は会長があたるとなっておりますので、会長である市長に議長をお願いいたします。</p>
議 長（市長）	<p>それでは、会議を始めさせていただきます。</p> <p>議題1.「海津市地域防災計画」の一部修正についてお諮りいたします。</p> <p>事務局より説明いたします。</p>
事務局	<p>（事務局説明）</p>
議 長（市長）	<p>説明が終わりました。</p>

	何かご意見等がありますでしょうか。ある方は挙手にてお願いいたします。
委員	トイレカーについてお聞きします。購入される予定のイレカー1台あたりのし尿の容量と処理方法を教えていただきたいです。
事務局	資料4をご確認ください。こちらに記載のとおり、給水タンクの容量は100リットル、し尿を溜めておく便槽タンクは280リットルとなっております。使用回数については、80回～120回程度の使用が可能です。また、し尿の処理方法については、バキュームカー等による汲み取りを想定しています。
委員	能登半島地震の被災地の穴水町へ支援に行った際に、外からの支援でトイレカーが来ていたのですが、し尿の処理方法で苦労していたのを見てきましたのでお聞きしました、ありがとうございました。
議長（市長）	ほかに意見等がございますでしょうか。
委員	資料1-1⑨にもあるように、近頃は、地震だけでなく、台風や豪雨といった災害が頻発しております。このような状況に対応するために、様々な訓練を実施されていると思います。 防災計画の中で、様々な取り組みを準備されていると思いますが、この取り組みを、市民の方々に定着させるために、どのような訓練や啓発をされているのか教えていただきたいです。
事務局	本市におきましては、自治会単位で自主防災組織が設立されております。この自主防災組織ごとに主体的な防災訓練や防災講話の開催をお願いしております。希望に応じて、私たちも参加させていただき、特に最近の防災対策のトレンドについて講話を行っています。講話の申請をいただいた件数を把握しているだけでも、年間約50回程度、自治会に出向いてお話をさせていただいている状況です。 また、避難所の開設については、小学校区ごとに自治連合会や地区の社会福祉協議会が共同で避難所開設訓練をされている地区が多くあります。そのような訓練に私たちも参加させていただいております。 その訓練の際に、岐阜県で最初に導入したマイナンバーカードを活用した被災者支援システムを少しでも市民の方々に浸透させるために、開設訓練にはマイナンバーカードを持参いただくようお願いしており、訓練の中で、避難所開設員がバーコードを読み取り、避難者の情報を把握するという実践的な取り組みを、地道にご協力いただきながら進めているところです。 ほかにも、簡易トイレの使用方法やパーテーションの展開手順、段ボールベッドの組み立て方などを実践で学ぶ取り組みも重視して行っております。
委員	ありがとうございます。 この会議に参加する前に、海津市の取り組みを調べていたところ、Webサイト『デジタル行政』内で記事を拝見しました。その中で、クラウド型被災者支援システムについて言及されており、先進的な取り組みをされていることを知りました。 このシステムは、マイナンバーカードを活用して、その人がどこに避難しているのか等を把握するための仕組みであるということでしょうか。
事務局	このシステムでは、回線を通じて災害対策本部と繋がり、どこの避難所にどのような方が避難されているかを把握することが可能になります。また、このシステムを活用することで、作成済みの個別避難計画の作成及び登録ができるので、避難行動要支援者がどこの避難所にいつ避難されたのか把握することができ、それに応じて必要な物資や人員などの対応をいち早く準備することが可能になる仕組みです。
委員	県下でもすごく先進的な取組をされていると思いますので、こういった取組が、他の県内市町村にも広がっていくと良いと思いました。
議長（市長）	このシステムは、マイナンバーカードがなくても、手入力で誰がどこに避難をしているかという情報を登録・管理することが可能です。また、避難所ごとの登録だけではなく、すべての自主避難所を登録するのは難しいかもしれませんが、一定の規模以上の避難所については、このシステムに登録することで管理が可能となります。これ

	<p>により、小学校の体育館や公共施設、それ以外の場所に避難されている方々についても、集団での管理ができ、必要な物資がどこにどれだけ届ける必要があるかということも管理できるようになります。</p> <p>さらに、このシステムは災害発生直後から、その後のり災証明書の発行などにもつながっており、一つのシステム内で様々な登録を行うことが可能です。ただし、現段階では訓練等が十分に行われていないため、県と連携を図り、機能するようしていきたいと考えています。</p> <p>この地域防災計画のことにつきまして、アドバイザーの先生方からも、もしなにかございましたら、ぜひご質問いただければと思います。</p>
アドバイザー (小山先生)	<p>小山です、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回の防災会議の際にもお話をいただきましたが、防災会議というのは、市の防災方針を決定する上で重要な場であり、参加されておられる方々はそれぞれさまざまな視点や立場をお持ちの方々だと思います。各自の立場でなければ気付かない点というものもあるはずですので、ぜひその視点を活かしてご意見をいただけると良いと思います。</p> <p>行政の施策は基本的に防災計画に基づいて実施されるものであり、計画に書き込まれている内容が取り組みの根拠となります。逆に、計画に記載のないことは、根拠がないため実行に移せないというケースも考えられます。</p> <p>計画に記載があることで、災害時にすぐに対応できるだけでなく、災害前の準備段階から円滑に進められることになるとと思いますので、皆さまにおかれましては、それぞれの立場から、こういう点を記載すれば動きやすくなるのではないかなど、お気づきの点がありましたら、ぜひご意見をお願いします。</p>
委員	<p>木曾川下流河川事務所長の川上と申します、よろしくお願いいたします。</p> <p>国でも複合災害に関する検討が進められています。そのきっかけとなったのは、能登半島地震でした。能登半島地震では震度7の地震が発生した後、その年の9月に線状降水帯の影響で観測史上最大の降雨がありました。もしこれらの災害が逆の順番で起きていたら、被害は比較的少なかったかもしれませんが、実際には地震によって堤防などが破損したところに、計画を上回る大雨が降ったため、甚大な影響を受ける結果となりました。</p> <p>海津市でも同様に、複合災害においてどのような順番で災害が発生するかという最悪のシナリオを想定し、それを踏まえた訓練を行うことが重要だと思います。</p>
アドバイザー (小山先生)	<p>先ほど、佐川急便さんとヤマト運輸さんとの協定を結ぶ予定というお話がありました。ただ、事務局から説明があったように、企業が持つ人的資源等には限りがあるため、協定を結ぶだけでは結果的に早い者勝ちの状況になってしまうことがあります。そのため、平時から協定先を巻き込んで訓練等を実施することで、準備を整えることがポイントになってきます。</p> <p>また、災害対応の現場では、計画通りに役割分担をしても、想定どおりに進められないことはよくあることです。そのため、先ほど話のあったマイナンバーカードを活用した訓練を含めて、訓練では、現場で実行可能かどうかをしっかりと試していただきたいと思います。訓練の中で課題や困難が見つかった場合には協定先と相談しながら、どのように対応すれば円滑になるのか改善を図ることで、より実効性の高い体制を構築していただければと思います。</p>
委員	<p>南濃地区では、12月に大規模な避難所開設訓練が実施されました。その訓練の中で、マイナンバーカードを活用した避難所受付を実施しました。避難所受付では、参加者に対して、カードを持っている方は指定の窓口へ、持っていない方には紙の手続き方法を案内する形で進めました。これにより運営体制が少しずつ改善されていると感じています。</p> <p>ただし、市役所職員が現場にいる場合は対応できるものの、地震などの突如の災害</p>

	で市役所からの職員が到着できていない場合の想定は必要だと感じました。
事務局	12月の訓練の際はありがとうございました。 おっしゃるとおりですので、地域の皆様のご意見聞きながら、カバーしていきたいと思っております。大地震のときは通信も遮断されて、災対本部とつながらないような場合もありますが、そういった場合はスタンドアロンとあって、一旦入力してから、回線普及後に飛ばすということもできます。そういったことも初動の対応として地域の皆様と取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。
議長（市長）	いろいろなご意見ありがとうございました。 他にご意見も無いようなので、議事の方を進めさせていただきます。 それでは「地域防災計画の一部修正について」ご承認いただけますでしょうか。
各委員	「異議なし」との声が多数
議長（市長）	ありがとうございます。 異議なしと認め、このように修正をさせていただきます。 本日議題として予定をしておりましたものはこれで全てでございますので、進行を事務局の方へお返しいたします。
事務局	それではその他といたしまして、報告事項が5項目ございます。 担当より報告をいたします。
事務局	資料に基づき、報告
事務局	報告が終わりました。 何かご質問等がありますでしょうか。ある方は挙手にてお願いいたします。
アドバイザー （小山先生）	第2期海津市地域強靱化計画アクションプラン2025についてですが、KPIに関して、一部目標の達成が難しいと思われる箇所が4、5個あると思います。目標を達成できた場合は評価できますが、達成できなかった理由についても客観的に評価する必要があると思います。 また、KPIに関してはただ数字を示すだけでなく、そこに具体性や中身のある評価を盛り込むことが重要だと思います。 次に、説明のあったトイレカーについて、平時から活用されると良いと思いますが、活用予定はありますか。
事務局	トイレカーは、市内で開催されるイベント等にお貸しし、市民の皆様実際に利用していただくことで、災害時にはこういった形で活用できるということを知っていただく良い機会になるのではないかと思いますので、そういった方向で進めたいと考えております。
アドバイザー （小山先生）	ありがとうございます、もう1点お伺いします。 歴史民俗資料館に関してですが、私も先日リニューアル後の様子を見に伺いました。つい最近リニューアルされたこともあり、歴史的な文脈を保つイベントや防災関連のイベントなど、現在行われている防災教育と併せて、防災士の育成や協力をさらに強化していくべきではないかと思います。その際、資料館を活用して文化的な観点と災害への備えといったテーマを結び付ける企画を検討することで、交流や学びの機会を創出することができると思います。
事務局	防災士会の方々や地域の防災リーダーの皆様と協力しながら、今後のイベント等について検討を進めていきたいと考えております。また何かありましたら、ご指導いただけたらと思います、ぜひよろしくお願いいたします。
アドバイザー （伊藤氏）	清流の国ぎふ女性防災士会の伊藤です。 トイレカーや、以前ご紹介いただいたラップポン等で災害時のトイレ環境が充実してきていると感じています。オストメイト用のトイレのような要配慮者向けのトイレ設備は、現在の状況としてこれらはすでに用意されているのか、それとも今後の検討事項になるのでしょうか。

事務局	今後、整備してまいります。
事務局	それでは全体を通しまして、アドバイザーの先生からご意見を頂戴したいと思います。まず初めに野島先生からお願いします。
アドバイザー (能島先生)	<p>皆様、本日はお疲れ様でした。</p> <p>今回の地域防災計画の修正については、非常に重要な点ばかりだと思います。災害の発生が減らない現状や、避難者数が減少しない状況については、皆さんもご存じの通りかと思います。海津市としても、ハザードマップを見ていただくと分かる通り、海津市の地形は他の市町村には見られない非常にユニークな特徴があります。低地部分や山地部分など、独自の地形的条件や社会的条件を考慮しながら、しっかりと吟味を重ね、実際の状況を想定しながら対応を強化していくことが必要です。</p> <p>さらに、アクションプランに記載されている KPI 達成率についてですが、92%や100%といった数値目標がある以上、それに近づける努力が重要になり、数字だけではなく、効果を切实に感じられる取り組みをどう進めていくかが大事です。また、各部署がしっかりと弱点を見極め、修正や改善を進めることでリスクを減らしていくことが必要です。今後もこうした課題を丁寧に洗い出し、改善に努めていただければと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、小山先生お願いいたします。</p>
アドバイザー (小山先生)	<p>本日はお疲れ様でした。</p> <p>今の話に少し補足で、昨日、災害に関する中間支援組織のシンポジウムに出張させていただき、そこでいろいろな話題が出ました。その場には静岡県県庁の方もいらしており、昨年の牧之原市での災害対応に関する取り組みについてお話を伺いました。その中で、県がどれだけ支援体制を整えたとしても、最終的には市町村が主体的に取り組まなければ十分な災害対応は実現できず、役所内が縦割り体制のままでは全体の動きが停滞してしまうということが言われておりました。牧之原市の事例では、市長から、いただける支援はすべて活用する、全庁体制で対応するということを強く発信されていて、その結果、各部署が協力してどこができるのかを積極的に考える体制を構築したという話がありました。</p> <p>また、計画を策定する際には、計画に記載された内容が実行しやすいものになっているかどうかを意識することが重要です。計画において、横の連携を促すような仕組みを書き込むことで、柔軟に動ける体制に近づくことができると思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、伊藤アドバイザーお願いいたします。</p>
アドバイザー (伊藤氏)	<p>全体的な部分は能島先生と小山先生に総括していただいたと思うので、私からはやさしい避難生活について、ご意見としてお伝えしたいと思います。能登半島地震の際、寒い時期だったためトイレ問題が全面的に課題となりましたが、ある避難所において特筆すべき取り組みがありました。その避難所では、ウレタンボードの上に使い古しの毛布をかぶせて床からの冷気を遮断し、その上に段ボールベッドを置いていました。こうした対策により、避難所全体で床からの冷気を防いでいたのです。設営を担当した方に尋ねたところ、その町ではウレタンボードと古毛布を事前に備えていたとのことでした。このような対応ができたのは、町の規模や準備体制の充実のおかげではないかと思います。ぜひ海津市においても、やさしい避難生活を目指していただきたいと思います。避難者の方々が安心して過ごせる環境を提供するため、市全体で取り組んでいただけることを期待しております。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後になりますが、本年度、磯方委員が中心となりまして、内閣府のコミュニティ防災教育推進事業の採択を受け、様々な取り組みを展開されております。2月8日にシンポジウムが開催されますので、磯方委員から本事業ご紹介とシンポジウムのご案内をいただきたいと存じます。</p>

磯方委員	磯方委員より説明
事務局	<p>ありがとうございました。 その他ございますか。 委員の方からご意見やご質問、お知らせ等ございますでしょうか。 ご意見等ないようですので、これを持ちまして令和7年度海津市防災会議を閉会いたします。</p> <p>本日はご多忙の中、ご審議いただきありがとうございました。 お帰り際には、交通事故等にご注意頂き、お帰りいただきますようお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">午後3時00分閉会</p>